

2020年までの文化力の計画的強化の流れ

文化力の計画的強化

2014年

2020年

I. 人をつくる

- 文化芸術で「創造力・想像力」豊かな子供を育てる
- 芸術教育者(ファシリテーター)・専門人材(アートマネジメント人材等)の育成・活用(文化を身近に)
- 高度な芸術家育成、伝統芸能等の後継者・伝承者の養成

II. 地域を元気にする

- 文化財保存修理の抜本的強化
- 地域の文化資源を生かしたまちづくり
- 創造都市ネットワークからの発信

III. 世界の文化交流のハブとなる

- 伝統工芸・芸能、生活文化(衣・食・住)の海外発信の強化
- 海外での総合的な文化紹介イベントの開催
- 国内フェスティバル・国際会議の活性化

IV. 施設・組織、制度の整備

強固な文化力の基盤形成

『二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピック競技大会』に合わせ、日本中で魅力的な文化イベントを開催

2020年に目指す姿「文化芸術に支えられた「成熟社会の新モデル」を提示」

- ① 「世界に誇る日本各地の文化力」を維持、継承、発展させ、世界への発信力を強化する。
- ② 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に合わせ、東京をはじめ日本全国で、地域の文化芸術活動の特性を活かした「参加・体験型」の文化プログラムを提供する。
- ③ 全世界の人々が、日本での実際の文化体験への参加をとおして、国籍や世代を超えた対話や交流を深め、新たな文化の創造発信につなげる。
- ④ 上記の取組によって、文化体験をも目的とした訪日外国人旅行者数の大幅増加を目指す。

<参考1> 「世界に誇る日本各地の文化力」とは以下のようなものを指す。

- 各地域が主体となり、実績を積み重ねつつある文化芸術活動
 - ー ビエンナーレ、トリエンナーレ、芸術祭、展覧会などの開催
- 各地域で長年受け継がれてきた有形・無形の文化遺産を活用した取組
 - ー 神社、寺院、古民家、民俗芸能（神楽、虎舞など）、風俗慣習（祭事、田植えに関する風俗など）
- 日本の文化力の海外発信・世界との交流を目指した国際イベント、文化施設
 - ー 文化芸術創造都市の関係者が集うサミット、東アジア文化都市の取組

<参考2> 日本人は、地域に根付いたお祭りやおどりに参加する伝統があったり、日常においても、お稽古事や趣味などを通して、様々な文化芸術体験をする機会が多い。こうした機会への参加を外国人にも促し、人と人が対話や交流を深めることで、新たな文化の創造発信につなげる。

→ 文化芸術に支えられた「成熟社会の新モデル」を提示